
虹色日記

ジャスミン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虹色日記

【Nコード】

N2286Z

【作者名】

ジャスミン

【あらすじ】

いつも何を言われても、怒らずニコニコと笑っている稲富陽子。喧嘩最強と謳われ周りから恐れられる重安力哉。虐待という共通の悲しい過去を持つ二人の物語。

大好きな人たちと過ごす日々

第1章 忘れられない過去

(1)

ある真夜中

「ちくしょー！覚えてるよ、重安……」

暗いビルとビルの間で血だらけで倒れている何人かの1人がブルブルと震えながら声を振り絞った。

辺りは静かだった。

ここは、都会の街中から少し離れた山の麓に位置する私立桐谷学園。

「あ、危ない！」

遅かった。

思いきり蹴られたサッカーボールは小さな少女の頭に躊躇なく当たった。

少女は、花壇の手入れをしていた。色とりどりの綺麗な花が並ぶ花壇に生えてきた雑草を抜いていた。

人形のような端麗な顔に少し茶色がかったサラサラロングヘアの少女は、ポトッと変な音をたててその場に倒れ落ちた。

「やばっ！」

ボールを当てた当本人の少年は真っ青になり、少女へと近寄った。

「稲富さん…大丈夫？」

少女は、その小さな体をゆっくり起こしほんのり優しい笑顔を浮かべて言った。

「大丈夫ですよ。」

「いや、でもすごい音がしたよ…」
真つ青になった少年は少女の顔を心配そうに覗きながら言った。

「このくらい何ともないですよ。大丈夫です。」
少年も背が低いが、更に更に小さいその少女は気にしないで言うようににっこりと笑って言った。
そう言った後早々と駆け足で去って行った。

が、コケた（笑）

しかも何も無いところで。

少女の名は稲富陽子。

茶色がかったロングヘアで端正な顔を持つ身長148cmの小さな女の子。

いつもニコニコしていて優しいが、少し、いやかなりドジで鈍くさい女の子であった。

「また稲富さん？」

それを見ていた周りの生徒たちはクスクスと笑っていた。

「陽子！よーこっ！」

大きな声で陽子を呼ぶのは親友で同じクラスの田中京子だった。

陽子とは逆に長身で黒髪ショートヘアに健康的な小麦肌の少女だった。

「あなた、またド派手にコケたねー。見て大笑いしちゃったじゃないの。」

豪快な性格の京子は続ける。

「ま、それはさておき聞いてよ！KIRIがね…」

京子は長々と自分が大好きな若手俳優KIRIについて話し始めた。

お人好しな陽子はそれをうんうんと頷きながら聞いている。

と、その時周りにいた女子たちの殆どが騒ぎ始めた。

一気に窓の外に注目した。

「見て！洋君と宏樹君よ！」

何やら校庭でサッカーをしている一際目立つ二人を見て騒いでいるようだった。

陽子はその二人を見て、

「あっ、さっきの…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2286z/>

虹色日記

2011年12月8日03時04分発行